

Salon d' AALA

サロン

ダーラ

2019. 7. 1.

No.116

シンガポール国へ短い旅(2/22-26)

成田 光生

退職して十数年、無職の生活を続けることは難しい。と言って何かのボランティア活動に生き甲斐を見出すほど世間慣れもできていない。田舎の農家の友人に誘われシンガポールへ旅をした。

「高い、ツバを吐いたら罰金、清潔、島国、バクチ」というイメージを持っていた。旅をして気付いたが、資源の無い狭い空間に短期間に諸民族が集まった国家。

私たち日本人がイメージする共通語が無い。英語が公用語(の一つ)と言っても、宿泊ホテルの窓拭きをしている人と会話するのは困難。相手が何語の人なのかを知らないを通じない。国籍はあっても「シンガポール人はいない」が結論。

海上交通のハブと金融で国家収入を得ている

インド人の街リトルインディアの店に入って大発見。置いてある商品もラベルもインドそのまま。中味を見ても何なのか解らない。知らない物だらけ。何を売っているのか解らない不思議空間。そう言えば、さっき入った店はハングル文字だけ。まさかそれを「シンガポール土産」として買って帰る勇気は無い。

シンガポールの夜のナイトサファリでは、保護地区のたくさんの動物の生態を垣間見ることができた。闇夜に目を凝らして発見。水や食糧(すべて輸入品)は十分と感じた。

隣国マレーシアとは数百メートルの道でつながっていて、多くの人が行き交っていた。日帰りのマレーシアのジョホールバル見学をした。イスラムの王様の国。昔の生活の様子を再現したところも見た。旧日本軍の話も出た。シンガポールとは全く違う空間。

島内には無数のビルがある。世界各国の会社の支店もあるが、働いている人々の居住空間でもある。観光客以外の外国籍の人々が非常に多い。シンガポールがアセアン(東南アジア諸国連合)で域内の紛争処理で大きな貢献をしているのは、この国の実情から感じた。

今、日本では隣国に対抗するための軍備(でもその多くは不良品)増強を声高に唱える人々が



いるが、日々外国産の食糧で生きているのと思う。

屋上に「船」を載せているビルは遠景だけにした。お金の無い人が近づくのは無理。高級ホテルのテラスで時間をかけて朝食をしている横を何度も通った。短時間のリバークルーズもした。川と言っても海水の水路。友人は「マーライオン像」の写真を撮って満足顔。私は中国製の陶器を買った。初日の昼、目当てのレストランを探して暑い中をテクテク歩いた。結局友人のスマホの助けを借りて見つけた。住宅街の中にあるのでピンポイントで店の前まで行かないと見つけられない。

各国の料理が食べられる食堂空間があちこちにあった。注文の方法も回りをよく見て言わないと口に入らない。

シンガポール国が習慣など違うアセアンの団結・発展に重要な立場であることを感じた旅であった。

歌 瘡師美智子

◎ 遺影抱き見つめる遺族を無視するか

労働者つぶす悪法強行

◎ 濁流を肩寄せ合うごと耐えし牛

翌日小牛の生れしニュース聞く

◎ 翁長さん聞こえましたか玉城氏の貴方の

意思継ぐ勝利の声を

◎ 沖縄の民意も法も無視するか辺野古の

海に土砂入れ始む

◎ これでもか辺野古埋めたてノーの声七割

越えて政府に突き出す

フ ラ ッ シ ュ

◎ EU 離脱、強硬派 VS 穏健派

【ロンドン=時事】

メイ英首相の後任を選ぶ与党・保守党党首選は、ボリス・ジョンソン前外相とジェレミー・ハント外相の2人が決戦投票に進むことが20日、決まりました。何の取り決めもないまま欧州連合（EU）を離脱する「合意なき離脱」も辞さない強硬派のジョンソン氏と離脱延期も視野に入れる穏健派のハント氏の対決構図となりました。

◎ IS 戦闘員家族の帰国認めよ

【ジュネーブ=AFP 時事】

バチレ国連人権高等弁務官（前チリ大統領）は24日、過激組織ISに加わった約50カ国からの外国人戦闘員の家族がシリアやイラクで拘束中だとし「訴追されない限り帰国は認められるべきだ」と出身国に引き取りを要請しました。ジュネーブで人権理事会の開会に際し演説しました。

【しんぶん赤旗より転載】

K君の思い出

西山正一郎

韓国から来日したK君は学生ではなかった。7年務めた新聞社を辞めて京都へ来た。彼は尹東柱の詩をこよなく愛する文学青年であった。「死ぬ日まで空を仰ぎ」の心をもって新聞社へ入社した。そして社会部記者として、「鍛えた文章で俗悪な世の中を切る」覚悟で記者生活をおくっていたが、深夜11時前には帰宅できないほどの過酷な勤務に疲れ切って退職した。

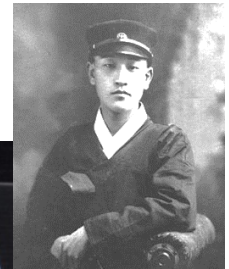
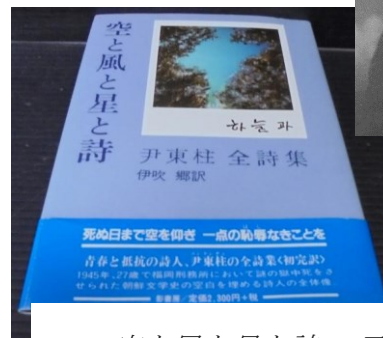
知人に勧められて吉田日本語学習友の会に入会したK君を私が担当することになった。彼の日本語能力は、三島由紀夫や柄谷行人を読めるほどのものだったが、更に磨きをかけるために勉強したいということだった。

韓国は詩の国である。K君も当然のことながら詩をこよなく愛する青年である。なかでも尹東柱が好きだという。尹東柱は1917年旧満州間島省明東村のクリスチャンの家庭に生

まれた。1941年11月、それまで書きためた詩の中から18篇を選び、これに「序詞」をつけて「空と風と星と詩」という題で詩集を編んだ。しかし出版費用が無かったため3部を手書きで残して日本に向かった。1942年立教大学に入学するが、のち同志社大学へ移り、在学中の1943年治安維持法違反で下鴨警察署の特高に逮捕された。ハングルで詩を書いたためである。京都地裁で懲役2年の判決を受け、福岡刑務所へ送られ、1945年2月、そこで獄死する。享年27歳であった。以下に詩集巻頭の「序詞」を紹介したい。

序詞

死ぬ日まで空を仰ぎ
一点の恥辱なきことを、
葉あいにそよぐ風にも
わたしは心痛んだ。
星をうたう心で
生きとし生けるものをいとおしまねば
そしてわたしに与えられた道を
歩みゆかねば。
今宵も星が風にふきさらされる。
(伊吹郷 訳)



空と風と星と詩：尹東柱全詩集

ここには若き詩人の清冽な詩情の迸りがある。毎年2月には、立教大学と同志社大学で、尹東柱を偲ぶ集いが開催されている。私も同志社大学での集いに参加して献花したことがある。その時は、ソウルから高校生たちが参加していた。そしてこの詩を韓国語と日本語で朗読してくれた。その朗唱の声に重なるように尹東柱の声が聞こえたような気がした。それは空耳だったのか、それとも彼の故郷の方から吹いてくる北西の季節風のせいだったのかも知れない。



郵送料金が高騰しました、財政活動にご協力をお願いいたします！！ 周りの方にAALA入会を訴えて頂きましたら、もっとうれしいです

書き損じた年賀はがき・昨年以前の使わなかったはがき・切手など頂けませんか？

事務局までご連絡ください。

kyotoaala@googlegroups.com